

第5章 名勝の現状と課題

1. 保存（保存管理）

（1）指定地における保存の現状と課題

八陣の庭は、作庭されてから60年以上経過しており、全ての構成要素において経年劣化等がみられる。それと同様にそれらを取り巻くものについても劣化等がみられる。今後八陣の庭においては、補修等が必要となる案件が発生すると考えられるが、作庭当初の資料が少なく、今後行われるであろう補修方法について（仮称）景石等保存修復委員会等の会議体を組織するなどし、引き続き検討する必要がある。

現在、庭園の清掃など日常的な維持管理は、委託業者により実施されている。

また、本庭園の景石の状況については「景石等管理台帳」（下表に例示）を用いて状態の把握や劣化具合の確認を行っている。

保存の課題として、現状では維持管理のみ行われているが、保存管理の方針を定め、それらに基づき厳密に保存・修復することで、本庭園の本質的価値を高めていく必要がある。

名称	寸法(cm)	石の種類	現状	亀裂				備考	修繕台帳記録・経過措置等記入欄
				亀裂	割れ	欠損	判定		
大得-1	縦 85 横 65 高さ 100	緑色結晶片岩	一部に亀裂あり。高硬度の石であるため石英の晶出が多く、層理を成さず不定に割れる性状を持つ。	○			低	石英成分が多く、比較的強度のある石。	
大得-2	縦 160 横 50 高さ 62	緑色結晶片岩	平面（ひらめん）両側に層状剥離の欠損あり。剥離は進行中。			○	中～高	剥離が進行するとい量観に影響あり。	
大得-3	縦 106 横 43 高さ 52	緑色結晶片岩	目視、打診とも異常なし。						
大得-4	縦 43 横 30 高さ 62	緑色結晶片岩	平面に層状剥離の前段階の亀裂がある。	○			低	目視では分かりにくいので打音検査で確認。	
大得-5	縦 143 横 62 高さ 88	石英片岩	進行すると景石全体の景観を損なう恐れのある亀裂あり。基底部まで通っている恐れがあり、割れの可能性もある。	○	○		中	硬質な石英片岩だが割れている恐れあり。	
大得-6	縦 128 横 81 高さ 61	緑色結晶片岩	目視、打診とも異常なし。						
大得-7	縦 92 横 70 高さ 221	緑色片岩	中央部に上から下まで通る割れあり。現状では剥離、倒壊の恐れはない。上部80cm内に多くの亀裂がある	○	○	○	中	割れが進行すると景観に影響あり。	

（2）構成要素における保存の現状と課題

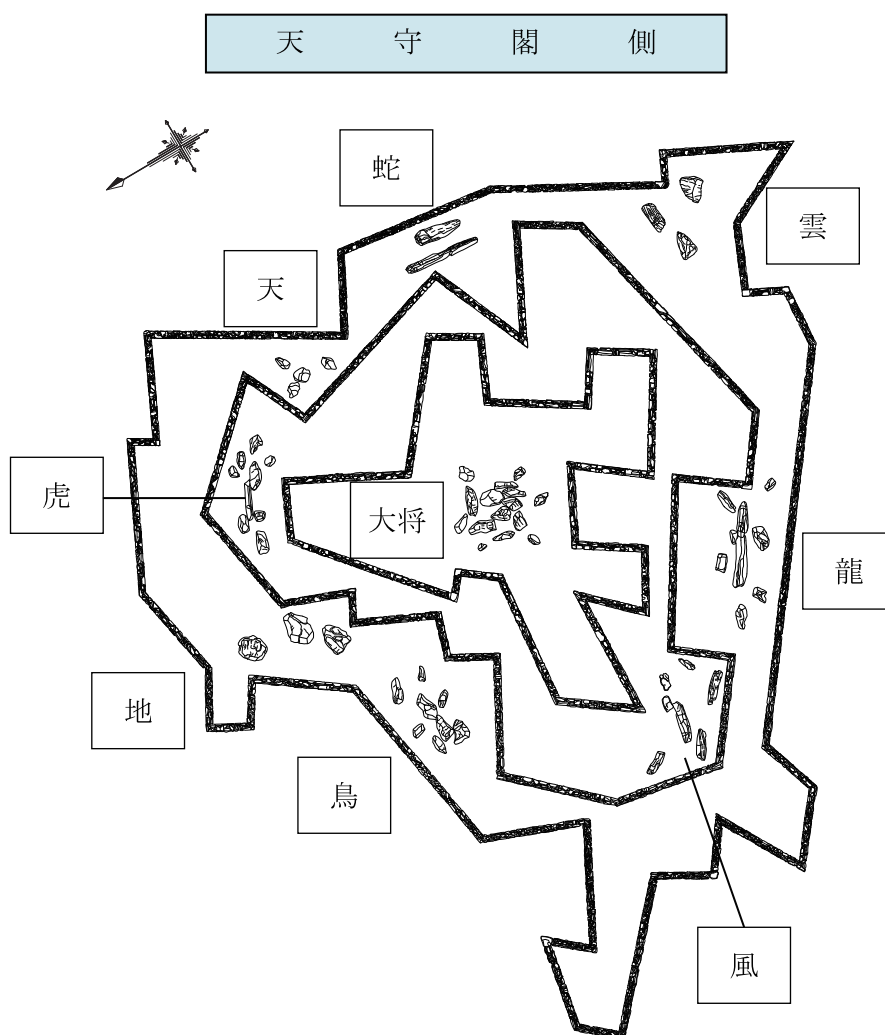
名勝指定地の本質的な価値を維持していくための枢要な要素は、庭園（石組・縁石・白砂・クロマツ・芝生）、天守閣（天守閣・天守台）、本丸跡（石垣・地下遺構・露出遺構）、庭園を鑑賞できる園路が挙げられる。現状は以下のとおりである。

- ・景石や縁石の風化、劣化が著しい。
- ・景石の基礎構造が不明である。
- ・白砂の劣化、鉄錆び（かなさび）が目立つ。
- ・天守台や本丸跡の石垣がはらんだり間詰めが抜けている。

(3) 石組、景石の現状

庭園の石組全体で言えることだが、結晶片岩という性格上、層状の剥離が著しいものがみられる。それぞれ景石の状態は各石組、石材種、立地で異なるため、全体的な調査が必要であるが、2～3石の景石では、すでに全体の崩落が始まっているものもあり、至急手を施す必要がある。従って、現状の景石についての判断は目視、打診棒による打音検査に基づくが、今後は専門家による調査も検討すべきである。

また、崩落に関連して景石の基礎構造、根入れの深さが不明であり、発掘調査を実施することで、今後の景石全体の補修計画の参考にする必要がある。



[図 5-1] 陣の配置図



上空から撮影①



上空から撮影②



上空から天守閣を撮影

以下に概要な要素の現状と課題について、列挙する。

(ア) 庭園

石組

○調査方法

目視を基本とし、必要に応じ、打診棒及びテストハンマーによる打音検査とスケール計測を行った。

○景石の現状については以下のように分類した。

亀裂：ひびが入っている状態

割れ：ひびが入りその部分が離れている状態

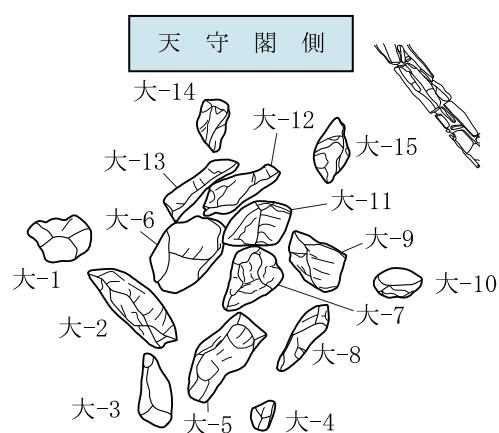
欠損：欠けてなくなっている状態

【大将】

〔構成〕 上段中央に位置し、15 石で構成されている。

〔現状〕 中央の立石（大－7）のほか、大－12、大－14、大－15 にも亀裂が見られる。

〔課題〕 15 石中、13 石において亀裂、割れ、欠損が見られるため、今後も注意が必要である。



北西から撮影



南東から撮影



南西から撮影



北東から撮影

景石状況確認表【大将】								
名称	寸法 (cm)			石の種類	現状	亀裂	割れ	欠損
	縦	横	高さ					
大将 - 1	85	65	100	緑色結晶片岩	・一部に亀裂あり 不定に割れる	○		
大将 - 2	160	50	62	緑色結晶片岩	・平面（ひらめん）両側に層状剥離の欠損あり			○
大将 - 3	106	43	52	緑色結晶片岩	・異常なし			
大将 - 4	43	30	62	緑色結晶片岩	・平面に層状剥離の亀裂あり	○		
大将 - 5	143	62	88	石英片岩	・亀裂が進行すると割れる恐れあり	○		
大将 - 6	128	81	61	緑色結晶片岩	・異常なし			
大将 - 7	92	70	221	緑色片岩	・中央部に大きな割れあり ・上部 80cm 内に多くの亀裂あり	○	○	○
大将 - 8	116	30	41	緑色結晶片岩	・軽度の亀裂あり	○		
大将 - 9	82	64	81	緑色結晶片岩	・一部に欠損あり			○
大将 -10	68	40	59	緑色泥岩	・石英脈の間に亀裂あり	○		
大将 -11	113	68	135	石英片岩	・石英晶出が入っている境目に亀裂あり	○		
大将 -12	127	43	88	緑色結晶片岩	・石英晶出、蛇紋岩が入っている境目に割れあり		○	○
大将 -13	130	34	45	緑色結晶片岩	・打診で亀裂音あり	○		
大将 -14	78	45	50	緑色結晶片岩	・全体に層状の亀裂および割れあり	○	○	○
大将 -15	96	47	56	緑色結晶片岩	・中央部に割れあり ・層状に連続した小さな割れあり	○	○	○

現状写真



大 - 7



大 -14



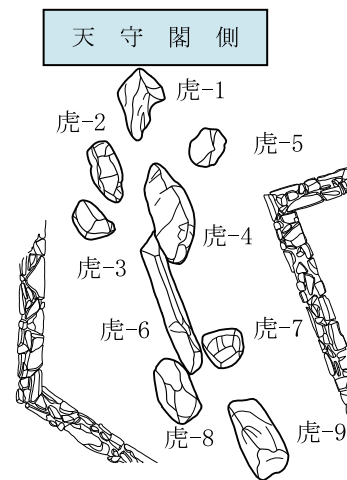
大 -15

【虎陣】

〔構成〕 中段の北に位置し、9石で構成されている。

〔現状〕 虎-1において、全体に亀裂、割れがあり劣化が目立つ。虎-2、虎-9にも割れが見られる。

〔課題〕 9石中、6石において亀裂、割れ、欠損が見られるため、今後も注意が必要である。



北西から撮影



南東から撮影



南西から撮影



北東から撮影

景石状況確認表【虎陣】								
名称	寸法 (cm)			石の種類	現状	亀裂	割れ	欠損
	縦	横	高さ					
虎 - 1	95	62	70	緑泥片岩	・全体に層状の亀裂及び割れあり	○	○	○
虎 - 2	96	41	126	緑泥片岩	・表面、裏面ともに亀裂あり	○	○	
虎 - 3	58	39	74	緑色結晶片岩	・部分的に亀裂あり	○		
虎 - 4	152	59	80	緑色結晶片岩	・異常なし			
虎 - 5	51	51	54	緑色結晶片岩	・異常なし			
虎 - 6	219	31	126	緑泥片岩	・表面の一部、裏面の大部分に亀裂あり ・大きな剥離欠損あり	○		○
虎 - 7	65	52	134	緑色結晶片岩	・異常なし			
虎 - 8	97	50	107	緑色結晶片岩	・平面両側に亀裂あり	○		
虎 - 9	125	52	123	緑色結晶片岩	・平面両側に亀裂あり ・石英脈の中に割れあり	○	○	

現状写真



虎 - 1



虎 - 2



虎 - 6



虎 - 8



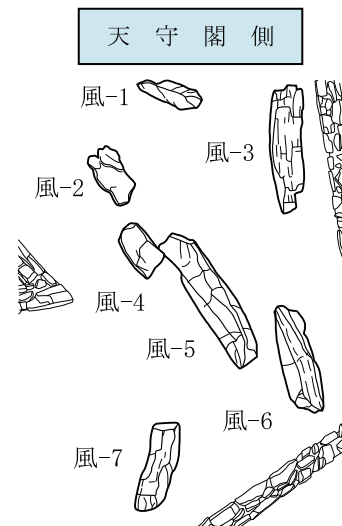
虎 - 9

【風陣】

〔構成〕 中段の南西に位置し、7石で構成される。

〔現状〕 風－3、風－6において割れが目立つ。

〔課題〕 7石中、6石において亀裂、割れ、欠損が見られる。特に風－6の中央部にある割れに注意が必要である。



北西から撮影



南東から撮影



南西から撮影



北東から撮影

景石状況確認表【風陣】								
名称	寸法 (cm)			石の種類	現状	亀裂	割れ	欠損
	縦	横	高さ					
風 - 1	95	37	85	石英片岩	・石英片岩のため割れまで至らず亀裂に留まっている	○		
風 - 2	98	45	12	緑泥片岩	・泥岩系のため層状に亀裂・欠損がある	○		○
風 - 3	188	45	63	緑色結晶片岩	・平行層理の石を横石にしているため、割れが縦に多く入り、欠損もある		○	○
風 - 4	81	38	53	緑泥片岩	・層状に割れが入っている		○	
風 - 5	218	55	98	石英片岩	・2か所に割れあり		○	
風 - 6	168	52	65	緑色結晶片岩	・層理に直交する割れあり		○	
風 - 7	139	41	79	石英片岩	・異常なし			

現状写真



風 - 3



風 - 6

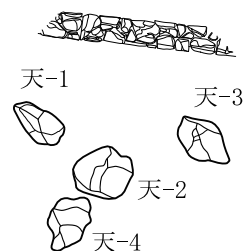
【天陣】

〔構成〕 下段の北東に位置し、4石で構成される。

〔現状〕 天-1に亀裂、割れ、欠損があり、周囲にも落下した石片が見られる。

〔課題〕 4石中、すべてにおいて亀裂、割れ、欠損が見られる。すべて立石の構成となるため、基礎構造を確認する必要がある。

天 守 閣 側



北西から撮影



南東から撮影



南西から撮影



北東から撮影

景石状況確認表【天陣】

名称	寸法 (cm)			石の種類	現状	亀裂	割れ	欠損
	縦	横	高さ					
天-1	91	40	147	緑泥片岩	・多くの割れ、欠損がある	○	○	○
天-2	96	79	234	緑色結晶片岩	・中央部に縦に入っている石英脈との境目に亀裂あり	○		
天-3	78	54	160	緑色結晶片岩	・層理に対し斜めに入る亀裂あり	○		
天-4	82	59	124	石英片岩	・一部に亀裂あり	○		

現状写真



天-1



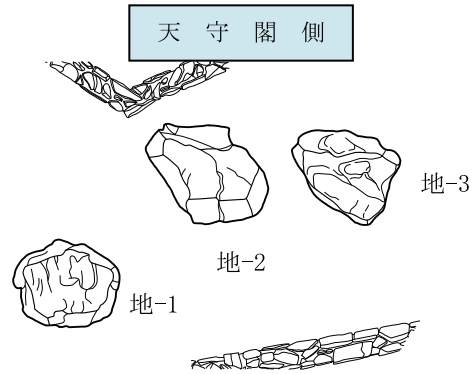
天-3

【地陣】

【構成】 下段の北西に位置し、3石で構成される。

【現状】 地-2の表面に亀裂があるが、現状では大きくき損するものではない。

【課題】 3石中、すべてにおいて亀裂、欠損が見られる。



北西から撮影



南東から撮影



南西から撮影



北東から撮影

景石状況確認表【地陣】

名称	寸法 (cm)			石の種類	現状	亀裂	割れ	欠損
	縦	横	高さ					
地-1	162	126	40	石英片岩	・打診で確認できる亀裂あり	○		
地-2	191	147	37	緑色結晶片岩	・上面の広範囲で剥離し欠損している	○	○	○
地-3	154	125	38	石英片岩	・打診で確認できる亀裂あり	○		

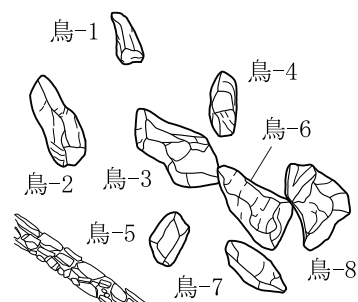
【鳥陣】

〔構成〕 下段の西に位置し、8石で構成される。

〔現状〕 鳥-2に多くの亀裂、割れが見られる。

〔課題〕 8石中、6石において亀裂、割れが見られる。特に鳥-2は石自体がもろく、注意が必要である。

天守閣側



北西から撮影



南東から撮影



南西から撮影



北東から撮影

景石状況確認表【鳥陣】

名称	寸法 (cm)			石の種類	現状	亀裂	割れ	欠損
	縦	横	高さ					
鳥-1	86	38	56	緑色結晶片岩	・異常なし			
鳥-2	141	45	84	緑泥片岩	・層状に5本以上の割れあり		○	
鳥-3	160	71	90	緑色結晶片岩	・一部に亀裂あり	○		
鳥-4	102	34	103	緑色結晶片岩	・異常なし			
鳥-5	77	42	136	緑色結晶片岩	・変成度が高く、細く脈状に入っている石英脈に亀裂あり	○		
鳥-6	145	71	59	緑色結晶片岩	・打診で確認できる亀裂あり	○		
鳥-7	113	42	37	緑色結晶片岩	・亀裂・割れあり	○	○	
鳥-8	122	86	101	緑色結晶片岩	・打診で確認できる亀裂あり ・一部に割れがある	○	○	

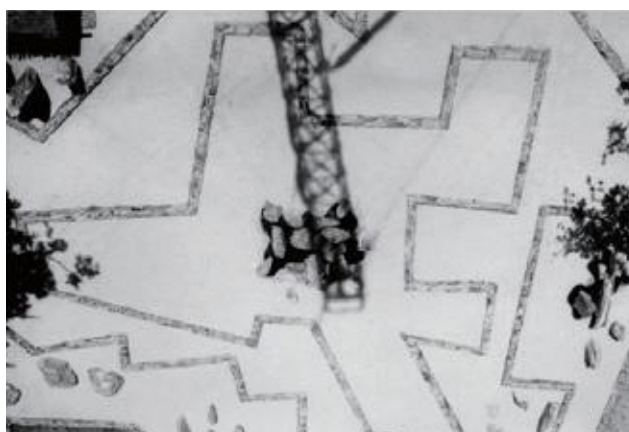
現状写真



鳥 - 2

古写真

天守閣建設中
(昭和 29 年)

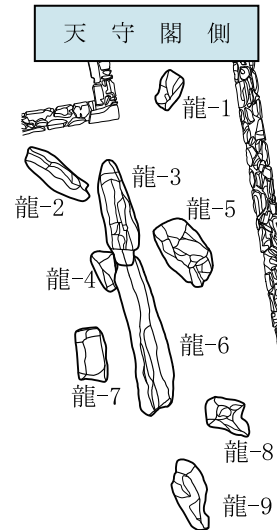


【龍陣】

〔構成〕 下段の南に位置し、9石で構成される。

〔現状〕 龍-2は割れ、龍-9は割れと欠損が著しく表面が崩落している。

〔課題〕 9石中、6石において亀裂、割れ、欠損が見られる。特に龍-9の割れは景石全体に及んでいるため注意が必要である。



北西から撮影



南東から撮影



南西から撮影



北東から撮影

景石状況確認表【龍陣】								
名称	寸法 (cm)			石の種類	現状	亀裂	割れ	欠損
	縦	横	高さ					
龍－１	67	31	48	石英片岩	・異常なし			
龍－２	137	40	79	緑泥片岩	・大きく２か所で亀裂あり	○		
龍－３	186	53	68	石英片岩	・石英主体だが全体に脆い	○	○	
龍－４	72	35	40	緑色結晶片岩	・蛇紋岩のため亀裂が多い	○		
龍－５	124	70	51	石英片岩	・異常なし			
龍－６	270	61	68	緑色結晶片岩	・打診で確認できる亀裂あり	○		
龍－７	85	47	130	緑色結晶片岩	・変成度が高く層が曲がった部分に亀裂あり	○		
龍－８	96	53	63	緑色結晶片岩	・異常なし			
龍－９	124	50	108	緑色結晶片岩	・全体に割れあり 崩壊の危険性	○	○	○

現状写真



龍－２



龍－３



龍－９



龍－９

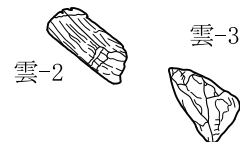
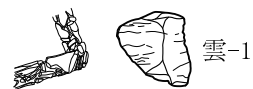
【雲陣】

〔構成〕 下段の南東に位置し、3石で構成される。

〔現状〕 特に劣化は見られない。

〔課題〕 特になし。

天 守 閣 側



北西から撮影



南東から撮影



南西から撮影



北東から撮影

景石状況確認表【雲陣】

名称	寸法 (cm)			石の種類	現状	割れ	亀裂	欠損
	縦	横	高さ					
雲 - 1	154	119	21	緑色結晶片岩	・異常なし			
雲 - 2	159	64	40	緑色結晶片岩	・異常なし			
雲 - 3	149	76	93	緑色結晶片岩	・異常なし			

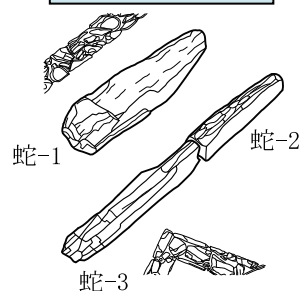
【蛇陣】

〔構成〕下段の東に位置し、3石で構成される。

〔現状〕蛇－1に亀裂、割れが見られる。

〔課題〕3石中、すべてにおいて亀裂、割れが見られるため、今後も注意が必要である。

天守閣側



北西から撮影



南東から撮影



南西から撮影



北東から撮影

景石状況確認表【蛇陣】

名称	寸法 (cm)			石の種類	現状	亀裂	割れ	欠損
	縦	横	高さ					
蛇－1	259	72	81	緑色結晶片岩	・層理に直交する大きな割れあり	○	○	
蛇－2	170	47	46	緑色結晶片岩	・一部に亀裂あり	○		
蛇－3	252	44	79	緑色結晶片岩	・一部に亀裂あり	○		

縁石【概要な要素】

○調査方法

目視による確認を基本とする。必要に応じ、打診棒及びテストハンマーによる打音検査を行う。現状については以下のように分類した。

損傷：浮き（縁石がモルタルと離れて支持がない状態）、割れ（割れている状態）、欠損（欠けている状態）など

モルタル割れ：石と石の間のモルタルが接合していない、または無い状態

消滅：石自体が無くなっている状態

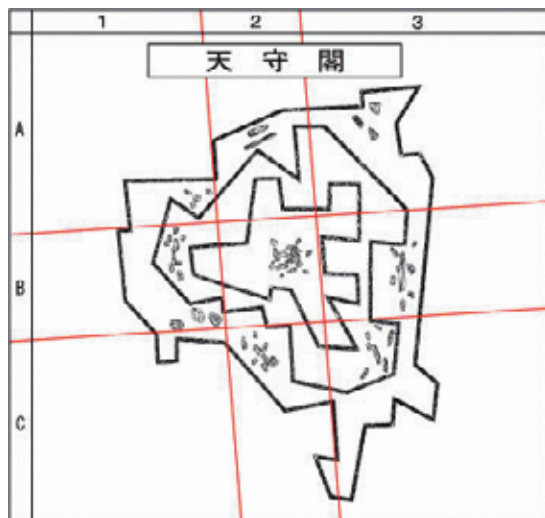
縁石

〔構成〕大將が配置されている上段、虎・風が配置されている中段、天・地・鳥・龍・雲・蛇が配置されている下段に分類される。石の種類は、緑色結晶片岩。

〔現状〕上段では、モルタル等の支持部がない状態の石や、モルタルの割れが多い。特に下記「縁石区分け図」B－3では、縁石の屈曲が多いため欠損が多い。中段では、浮き、割れが見られる。下段では、C－2、C－3の下段のクロマツ付近と、A－2のマツがあった付近でモルタルの割れ、浮きが目立つ。

〔課題〕特にC－2、C－3付近の縁石において、クロマツの根の影響により損傷が著しい。今後、縁石の補修とクロマツの根の処理を検討する必要がある。

縁石区分け図



A - 3 付近



A - 1 付近



B - 2 付近

緑石の損傷等の箇所数									
区分	上段			中段			下段		
	損傷	モルタル 割れ	消滅	損傷	モルタル 割れ	消滅	損傷	モルタル 割れ	消滅
A - 1	—	—	—	6	2	0	2	2	0
A - 2	10	0	0	4	3	0	4	0	2
A - 3	3	1	0	4	2	0	6	5	0
B - 1	8	0	0	7	3	0	0	2	0
B - 2	11	2	0	1	1	0	—	—	—
B - 3	21	6	0	5	4	0	4	1	0
C - 1	—	—	—	—	—	—	1	0	0
C - 2	4	0	0	9	1	0	15	0	1
C - 3	8	0	0	4	2	0	11	8	1

現状写真



割れ



クロマツの根で緑石が持ち上げられている



欠損



モルタルの割れ

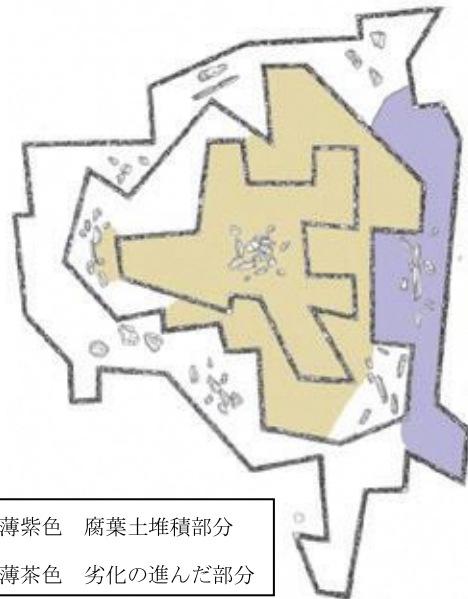
白砂【枢要な要素】

〔構成〕 緑石と同様、大將が配置されている上段、虎・風が配置されている中段、天・地・鳥・龍・雲・蛇が配置されている下段に分類される。主に京都の白川砂を使用。

〔現状〕 作庭当初の白砂に関する資料がないため、下層部は不明であり層の厚みがわからない。当初使用された砂礫の大きさも不明。平成23年頃、下段に2t程度白砂の補充を行っている。上段は作庭当初のままのため、花崗岩特有の鉄（かな）さびによる変色がみられる。中段は両方の白砂が混ざっている。下段は、落葉などによる腐葉土が堆積している部分がある。

〔課題〕 白砂の減少、劣化が目立つ。補充しているため各段で白砂の色合いが違う。砂礫が直径3～5mm程度にまで砕け、砂紋を入れても砂が立たなくなっている。色合いも鉄さびが目立つ。現在、白川砂の入手が困難なため、補充する際の砂の選定を検討する必要がある。

天 守 閣 側



上段



中段



下段



上段と中段

クロマツ【枢要な要素】

〔構成〕作庭当初、天守閣の反対側にクロマツ、天守閣側の両端にアカマツ2本（☆）があったとされる。

〔現状〕クロマツ1本（★）のみ残っている。

〔課題〕庭園としての剪定がされていないため、作庭当時より大きくなっている。また、クロマツの根が隆起し、縁石に悪影響を与えている。

枯れたとされるアカマツも、本来はクロマツであったという記録があり検証を要する。（P 14 ＊参照）



作庭当初の3本のマツの状況



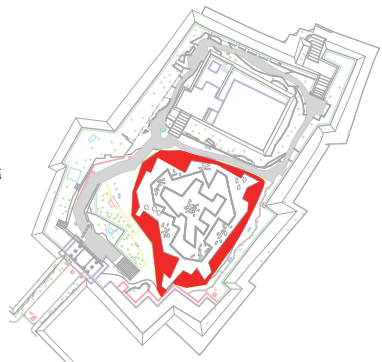
現在残るクロマツ

芝生【枢要な要素】

〔構成〕下段の縁石と竹柵との間に植えられている。

〔現状〕作庭当時はなく、後に植えられているが、重森も認識している。

〔課題〕一部が庭園用ではなく、公園、法面用の野芝が混植されているため、粗雑であり美しくない。



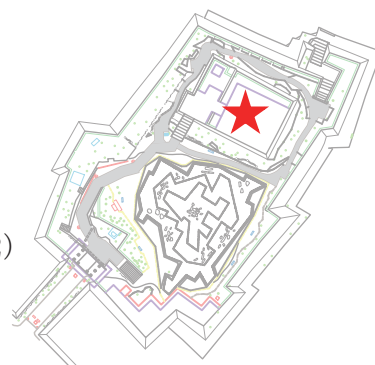
(イ) 天守閣

天守閣【枢要な要素】

〔構成〕昭和 29（1954）年、図書館施設を内部に有する模擬天守として建設された。鉄骨鉄筋コンクリート（SRC）構造の三層建。重森は天守閣の設計も認知して作庭しており、天守閣は庭園を俯瞰して展望するためには不可欠である。

〔現状〕昭和 50（1975）年まで図書館として使用後、観光施設として郷土資料の展示を行っている。平成 4（1992）年度に外装を改修済。平成 19（2007）年度より指定管理者である岸和田市観光振興協会が管理運営している。

〔課題〕昭和 29 年の建築物であり、現在の耐震基準に合致するか確認できない。今後の耐震診断によっては、閉鎖や建て替えが実施される可能性がある。



正面



南西側



南東側



北東側

古写真



天守閣建設前（年代不明）



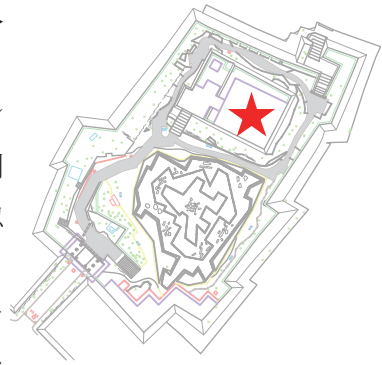
天守閣竣工後（昭和 30 年代）

天守台【枢要な要素】

〔構成〕 天守閣建設時に内部にコンクリートケーソンを入れて天守閣荷重を保持する。花崗岩を多く使用している。

〔現状〕 石垣の積み方が乱雑な部分や、石材の隙間にコンクリートが間詰めされている部分、間詰め抜け、石材の割れもある。北東面で「源氏車」、「大」などの刻印石が確認できるが剥離が進んでいる。

〔課題〕 構造上、石垣に天守閣の荷重はほとんどかかっていないが、積みの乱雑な部分で一部石垣が崩落する危険があり、石材の補修、間詰め補修が必要である。



西側



東側



北側



南側



石垣の割れ



間詰め修復